

7社のファイナリストから、株式会社カケハシがグランプリを受賞。

ファイナリスト概要 (ビジネスコンテスト部門)

グランプリ	調剤薬局の薬剤師向け服薬指導支援ツール「MUSUBI」／ 株式会社カケハシ	あらゆる患者の生活習慣病の重症化予防や、残薬削減の支援をサポートするための、調剤薬局・薬剤師向けのサービス。医療現場での無駄を省き、医療費の削減に貢献する。
優秀賞	医師同士のオンライン医療相談サービス「AntaaQA」／ アンター株式会社	処置や治療に困ったときに他の専門医に相談できるサービス。医師同士が互いに質問を投げ合い、受け答えが可能。医師間のやり取りを効率化し、「医療体制を整える一助となる」ことを目指す。
	人工知能と介護サービス情報プラットフォームを融合したケアマネジメントシステム開発事業／ 株式会社ウェルモ	地域包括ケアに必要な情報を蓄積・分析し、利用者のニーズに応じた介護サービスの提案ができる。個人の知識量や情報量に左右されない介護の提供を目指す。
	集中治療専門医集団による病院向け遠隔集中治療支援サービス（Tele-ICU）／ 株式会社T-ICU	集中治療を専門としない医師がビデオ通話を通じて集中治療専門医にアドバイスを受けられる病院向けサービス。集中治療の提供体制改善へ寄与する。
	人生百年時代を拓く“脳機能維持”のための未病ソリューション／ 株式会社NeU	超小型脳活動計測装置により、微弱な近赤外光を使って脳の血流量変化を計測することで脳活動を見える化できる。脳活動を計りながら脳を鍛えるサービスと併用することで、認知症にかかる医療費削減を狙う。
	国内初「日中の眠気の改善・マネジメント」で企業成長を支援！ 組織と個人を両面から支援する「唯一無二のハイブリッド式睡眠改善プログラム」／ 株式会社ニューロスペース	マットレスの下に敷いて睡眠を計測できるデバイスと、睡眠データを基に改善のためのアドバイスをしたり眠気を予測したりするスマートフォンアプリを活用する睡眠ソリューション。認知行動療法を基にした睡眠改善プログラムとして法人向けでの導入を狙う。
	自宅でできる！遠隔管理型心臓リハビリテーションシステム「リモハブ」／ 株式会社リモハブ	クラウドを経由して患者の自宅と医療機関をつなぎ、自宅にいながら心臓リハビリテーションを受けられるシステム。国内実施率10%という心臓リハビリテーションにおいて、患者の通院および金銭的な負担を軽減する。

3名のファイナリストが登壇。（2019年アイデアコンテスト部門は優秀賞のみ）

ファイナリスト概要（アイデアコンテスト部門）

優秀賞	嚥下障害リハビリの質を高める誤嚥検出センサーデバイスおよびアプリケーションの開発／原陽介氏（東北大学）	ウェアラブルセンサーと医療用のアプリを提供することで、誤嚥の発生を簡便かつ高精度で検出する手法を考案。胃ろう増設や長期入院を回避することに寄与し、医療費削減に貢献する。
	アート＆デザインからワクワクできるヘルスケアをつくろう／丸山亜由美氏（トリプル・リガーズ合同会社）	ヘルスケア用品等において「デザインの力」で魅力的な商品・サービスとすることで、商品価値の向上や、多くの人が予防や治療を楽しめる世界の実現を目指す。
	緑内障視野欠損簡易発見VR／木野瀬友人氏（デジタルハリウッド大学院デジタルヘルスラボ）	VRヘッドセットを利用し、VRゲームのようなコンテンツを通して緑内障の視野欠損を簡易的に発見し、早期介入に繋げる。緑内障の潜在患者を見つけ出し、失明患者の発生率低減への貢献を目指す。

1. JHeC2019グランプリ受賞者の概要

株式会社カケハシ



調剤薬局の薬剤師向け服薬指導支援ツール「Musubi」 提供による患者さんの健康意識の増加、 および業務効率化による薬局経営改善に寄与する事業

超高齢化社会に突入する日本社会において、医療機関が情報を共有し患者さんへ適切な医療を提供することは非常に重要なことです。また医療費が増大する中で、医療の無駄を削減し、より良くなり効率的に実施できる体制構築が求められています。当社はIT技術を駆使することで、より良い医療をより効率的な姿へ近づける架け橋となります。

自社開発した服薬指導支援ツール「Musubi」は、患者さんが年間8億回服薬指導を受けている日本において、あらゆる患者さんの生活習慣病の重症化予防や残薬削減の支援をするべく生まれたサービスです。当社では、「Musubi」について薬剤師の服薬指導支援に関する特許を取得しており（特許第6381088号）、薬を受け取るだけではない、患者さん自身の健康意識を高める新しい医療体験の実現を推進していきます。



登壇者プロフィール

氏名：中尾 豊
所属：株式会社カケハシ
役職：代表取締役CEO

武田薬品工業株式会社入社後、MRとして活動。提携会社との社長賞や支店の様々な賞を受賞。日本の医療の質の高さを感じると共に、患者さんへのサービスインフラの不備や医療従事者との情報格差の現状に気づく。医療業界において、サービス面で貢献することが多くの医療従事者や患者さんに貢献できる方法だと考え、独立を決意。2015年12月に同社を退職し、「医療をつなぎ、医療を照らす」というビジョンで株式会社カケハシを創業。



会社概要

薬剤師の服薬指導支援ツール「Musubi」を起点として、生活習慣病の重症化予防の支援だけでなく、医療機関間の連携、医療費の増大、医療の質の不透明性といった医療的課題の解決に向けて事業を展開している医療系スタートアップです。2016年3月に創業、2018年8月に「Musubi」を本格的に提供開始しました。現在まで1万店舗以上の薬局から問い合わせがあり、全国的に導入が進んでいます。

【当日のプレゼンの様子】



2. JHeC2019優秀賞受賞者の概要 ビジネスコンテスト部門（1）

アンター株式会社

Antaa

つながる力で 医療を支える



医師同士のオンライン医療相談サービス「AntaaQA」

現在、日本には医師不足という大きな課題があります。

弊社は医師不足の中で、医療現場で働く医師をつなぐことで、医師の診療を助けています。弊社が提供する医師同士のオンライン相談サービス、「AntaaQA」は医療現場で医師が専門外の診療を行う際に、専門医にオンラインで医療相談が行えるシステムです。現在医療は高度に専門性が高くなり細分化してきたこと、また高齢化社会によって患者が複数の疾患を抱えるようになったため医師は、専門分野外の診療を行うシーンが増えました。現場で患者の命に向き合う医師の痛みを、専門医に相談できることで解決します。そして、現場で患者の診断治療に必要な専門性を互いに相談することによって患者の命を救います。

登壇者プロフィール

氏名：中山 俊
所属：アンター株式会社
役職：代表取締役

整形外科医。2011年 広島大学医学部卒業後、東京医療センターにて初期研修医。現在、翠明会山王病院整形外科に勤務。2016年 アンター株式会社創業。医師のネットワークをオンライン、オフラインで構築。医師の医療現場の課題解決を行うことで、医療を支えるサービス開発を行っている。

会社概要

2016年6月14日 医師2名を中心にアンター株式会社を設立。

2016年10月 IBM Bluehubに採択されサービス開発に着手し、最優秀賞を受賞。2017年7月デジタルハリウッド大学大学院デジタルヘルスラボにてグランプリ受賞。2017年11月東北アクセラレータに採択され、仙台市の支援を受け東北の若手医師のネットワークを構築。2017年11月東京都/青山スタートアップアクセラレーションセンターに採択され、オーディエンス賞を受賞。2018年3月 TECHLABPAAKオーディエンス賞、Tech Crunch賞。2018年9月テレビ東京「WBS」出演。

株式会社ニューロスペース

NeuroSpace



登壇者プロフィール

氏名：小林 孝徳
所属：株式会社ニューロスペース
役職：代表取締役CEO

2010年新潟大学理学部素粒子物理学科卒業
受験生から社会人時代まで自身が苦しんだ睡眠障害の経験をきっかけに、現代人が抱える睡眠に関する悩みや障害に対して問題意識を抱き、2013年に株式会社ニューロスペースを創業

国内初「日中の眠気の改善・マネジメント」で企業成長を支援!
組織と個人を両面から支援する
「唯一無二のハイブリッド式睡眠改善プログラム」

これまで、産業現場における多様な働き方に起因する睡眠課題の解決や生産性の向上のため、さまざまな業種や勤務体系（日勤・シフト勤務など）で働く従業員の睡眠課題・勤務実態・生活習慣を把握し、これまで60社以上・のべ1万人以上の従業員の皆様へ、集合形式プログラム（研修）やe-learningなど組織実態に即したソリューションを提供してきました。

2019年からは、上記の取組みに加えて、高精度かつ高UXな睡眠計測デバイスと、国内初「日中の眠気」に着目した睡眠改善助言アプリを活用し、個人レベルの睡眠改善も行っていきます。

企業の実態を理解し、組織の睡眠課題の解決（現場密着ノウハウ）と併せて、一人ひとりに的確なソリューションの提供（サイエンス・テクノロジー）を掛け合わせ、組織と個人を両面から支援する「唯一無二のハイブリッド式のプログラム」を通じて、生産性向上・リスク低減を目指し、企業成長を後押ししていきます。



会社概要

企業向け睡眠改善プログラムを国内大手企業に提供し、企業の健康経営と生産性最大化を支援しています。また、最先端睡眠テクノロジーと独自の睡眠計測デバイスと解析アルゴリズムをもとに、共同研究開発も行う睡眠テクノロジーベンチャーです。

■NEDO採択実績

「研究開発型ベンチャー支援事業／シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援／シフト勤務者の大規模睡眠解析プラットフォーム開発」STS（2017年度）

「研究開発型ベンチャー支援事業／企業間連携スタートアップに対する事業化支援」SCA（2018年度）

3. JHeC2019優秀賞受賞者の概要

ビジネスコンテスト部門（2）

株式会社ウェルモ



登壇者プロフィール

氏名: 鹿野 佑介
所属: 株式会社ウェルモ
役職: 代表取締役CEO

大阪府出身。立命館APU卒業後、日本人の働きがいに注目しワクスアプリケーションズにて大企業向けのITコンサルタントとして勤務。その後、仙台から福岡まで介護事業所でのボランティアとインタビューを8か月強（計400法人）行う。2013年に熱い自治体職員のいる地、福岡にて株式会社ウェルモを創業。講師歴：経済産業省「オープンデータラウンドテーブル」「つながるデータで築く未来」総務省「データカディー」、地域ICT利活用普及促進セミナー等。2018年Forbes JAPAN「NEW INNOVATOR 日本の担い手99選」選出。

人工知能と介護サービス情報プラットフォームを融合したケアマネジメントシステム開発事業

弊社では、人工知能(NLP)によりケアプランの作成を補助し、利用者それぞれに最適と思われる介護サービスを提示するSaaSを開発しております。新人・ベテラン問わず知識レベルを底支えし、介護業界の業務効率化による働き方改革に寄与します。

【開発プロダクト】

■CPA（ケアプランアシスタント）

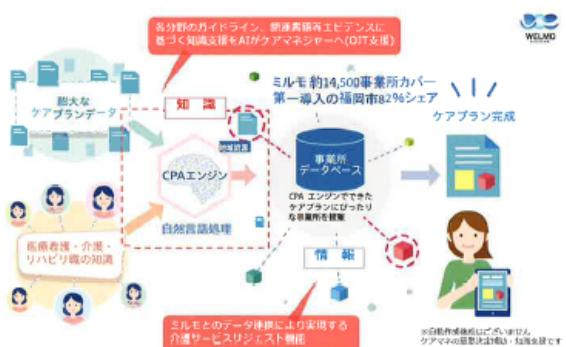
ケアマネジャーが要介護者の状態を項目ごとに入力すると、AIが介護における課題案・課題に応じたケアプラン文案・リファレンスを複数提示する。医療介護の幅広い分野における知識の抜け漏れをなくすことができると同時に、文章入力の手間を省くことができる。

【共同研究】

国立情報学研究所 市瀬 龍太郎准教授、産業技術総合研究所 持橋 大地准教授

■ミルモ

ケアマネジャー等専門職を対象とした、地域の介護情報プラットフォーム。地域包括ケアに必要な情報を蓄積・検索・分析し、利用者の細かなニーズにリアルタイムで対応した介護サービス（保険外含む）の提案が可能。現在、関東九州北海道にて14,500事業所をカバー。



会社概要

愛を中心とした「資本主義のつぎの社会」を描くことをビジョンに掲げるソーシャルITベンチャー。社名であるWELMOは、「Welfare（福祉）をMotto（もと）より良く」を由来とし、ロゴマークは、行政・事業所・利用者の三者を繋ぐという創業の思いを込めている。 東京駅が隣に本社を構え、福岡支社、札幌支社にて事業を展開している。また児童発達支援等5施設を運営。2018年に増資を行い現在、資本金5.73億円（資本準備金含め）。AIやICT等様々な技術を活用し、利用者本位と財源のバランシングを目指して日本の社会保障領域の課題解決を進める。総務省 地域情報化大賞、起業家博、NTTデータ オープンイノベーションコンテスト等多数受賞。

株式会社リモハブ



登壇者プロフィール

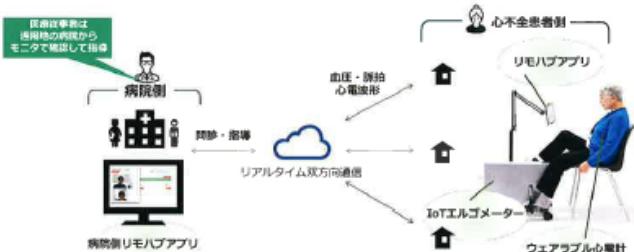
氏名: 谷口 達典
所属: 株式会社リモハブ
役職: 代表取締役社長

2006年大阪大学医学部卒業後、循環器内科専門医として臨床・研究に従事。2015年ジャパン・バイオデザインプログラムに第1期フェローとして参加。プログラム修了後、同大学発ベンチャーやとして株式会社リモハブを設立。代表取締役として事業を推進すると共に、大阪大学バイオデザイン学共同研究講座にて医療機器開発人材の教育や循環器医連主要学会で座長・シンポジストを務めるなどアカデミア活動も精力的に行う。若手循環器内科医のコミュニティであるU40心不全ネットワークの現代表幹事でもある。

自宅でできる！

遠隔管理型心臓リハビリテーションシステム「リモハブ」

心疾患は日本における国民死因の第2位で、その中でも心不全が最多を占めます。この心不全患者は120万人以上存在すると推定され、高齢者に多い疾患であることから今後も更なる増加が見込まれます。心不全の予後を改善させるため、週3回の適切な心臓リハビリの実施が効果的であると推奨されていますが、その実施率は1割を満たしません。その主な理由として、患者が高齢なため頻回の通院が難しいことが挙げられます。当社は、IoT技術を活用することで医療者による遠隔管理を実現し、病院内と同様に安全で適切なリハビリを在宅で実施可能なシステムを開発し、心疾患を含む運動が効果的とされる全疾患へ応用することにより多くの対象者に同システムを提供することを目指し、基盤を構築中です。今後、フレイル予防を目的としたヘルスケア事業展開した後、最終的には運動療法を中心とした在宅疾病管理プラットフォーム化を目指します。



会社概要

2017年3月設立。スタンフォード大学発の医療機器開発人材育成プログラム、ジャパン・バイオデザイン初の起業。大阪大学Innovation Bridge Grantの第一号案件として採択され、【総務省】平成29年度情報通信技術の研究開発に係る提案の公募の委託先にも選定されている。ビジコン大阪2017 Venture大賞を受賞。3件の特許出願を終え、2018年7月にVC2社を引受先とした第三者割当増資を実施。代表の谷口は事業の成功を通じて、日本における医療・ヘルスケア領域におけるアントレプレナー・ロールモデルを創出し、本分野におけるイノベーション・エコシステム構築を目指している。

4. JHeC2019優秀賞受賞者の概要 ビジネスコンテスト部門（2）

株式会社T-ICU



登壇者プロフィール

氏名：中西 智之
所属：株式会社T-ICU
役職：代表取締役社長

2001年京都府立医科大学医学部卒業。同大学外科学講座にて研修後、熊本赤十字病院にて心臓血管外科の研鑽を積む。その後、横浜市立大学麻酔科に入局。麻酔科や救急・集中治療を経て、2016年10月に株式会社T-ICUを設立。集中治療専門医の不足と偏在を解決すべく米国で既に導入されていた遠隔集中治療（Tele-ICU）

の日本への普及を推進している。社長業をこなしながら現在も集中治療専門医、麻酔科医として日々患者診療にも携わっている。

集中治療専門医集団による 病院向け遠隔集中治療支援サービス（Tele-ICU）

重症患者診療においては集中治療専門医が大きく関与した方が死亡率が下がると言われておりそれを示した論文も発表されています。日本には約1,100の集中治療室（ICU/HCU）を持つ病院があります。しかし、その約7割、約800病院では集中治療専門医が不在の状態です。そこで当社は、集中治療専門医が不在、もしくは不足している施設をメインターゲットとして、集中治療専門医がチームとなり、「遠隔から24時間体制で生体情報など（心電図、X線、採血データ等）を監視し、早期に的確な治療方針を提案することにより、重症患者を急変させることなく予後の改善をサポートします。また、先行する米国では医療の質が向上し、在院日数が3割程度減ったとされていることから、日本でも導入が進めば国民医療費の伸びの抑制にも貢献できると考えています。



会社概要

2016年10月 集中治療専門医3名を中心に株式会社T-ICUを設立。兵庫県のクリエイティブ起業創出への助成金（200万円）、日本政策金融公庫の特別貸付（2000万円）等を利用し、遠隔モニタリングシステムをはじめとしたプロトタイプを構築。2018年6月の第一号契約を皮切りに2019年初春には5施設へのサービス提供開始予定。

株式会社 NeU



登壇者プロフィール

氏名：長谷川 清
所属：株式会社 NeU
役職：代表取締役CEO

1985年早稲田大学商学部を卒業し、株式会社日立家電販売に入社。2007年に日立製作所コーポレート・ビジネス・クリエータ第一号に任命。2009年に脳科学の産業応用をテーマとしたブレインサイエンスビジネスユニットを設立し、ユニット長に就任。株式会社日立ハイテクノロジーズに事業移管した後、2017年8月に国立大学法人東北大と日立ハイテクノロジーズによるジョイントベンチャーとして株式会社NeUを設立。現職に就任。

人生百年時代を拓く“脳機能維持”のための未病ソリューション

加齢により脳の機能は衰え、萎縮していくと考えられていましたが、近年の研究より、脳（前頭前野）に負荷を与えたトレーニングでは認知機能が向上し、前頭前野の体積量も増えることが確認されています。ただし日常的な環境では、適度な負荷か否かを知ることは、従来の脳計測機が非常に大型かつ高コストであるため、非現実的とされていました。そこでNeUでは重さわずか30gの超小型脳活動計測装置「XB-01」を開発し、いつでもどこでも手軽に自分の脳活動を知れるソリューションを創生しました。さらにこのXB-01を使い、東北大での研究成果であるニューロフィードバックの知見を基に、効率的な認知機能トレーニングサービスも生み出しました。NeUは脳の健康を維持・向上するソリューションを中心に、来る人生百年時代に向けて健康寿命の延伸に務めて参ります。



会社概要

NeU(ニュ)は、東北大加賀医学研究所 川島研究室の「認知脳科学知見」と日立ハイテクノロジーズの「携帯型脳計測技術」を融合して誕生したベンチャーカンパニーです。近赤外光を使った脳計測技術をベースとして、「日常的な生活環境下での自然な脳活動」の計測を可能にするウェアラブルデバイスを開発。どこでも、だれでも、手軽に脳活動を測り役立てる事のできる世界の実現を目指しています。私たちの脳科学は、人に寄り添い、人を知ることを大切に、そして、人々の Quality of Life の向上に貢献して参ります。

5. JHeC2019優秀賞受賞者の概要 アイデアコンテスト部門（1）

東北大



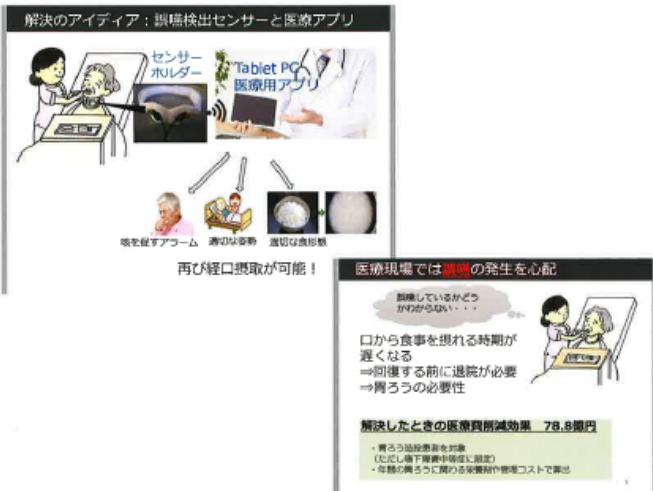
登壇者プロフィール

氏名：原 陽介
所属：東北大医学部医工学研究科
役職：リサーチフェロー

東北大医学部卒。耳鼻咽喉科専門医として嚥下障害の臨床および研究に従事しつつ、2016年ジャパンバイオデザインフェローとして活動し、現在は東北大事業化プログラムで本研究課題を推進する。一方で大学におけるインベーション教育（ジャパンバイオデザイン）、デザイン思考を使った医療機器企業のコンサルティング会社代表を務めている。

嚥下障害リハビリの質を高める誤嚥検出センサーデバイスおよびアプリケーションの開発

嚥下障害は脳卒中、がん等で食事が困難になり、肺炎、窒息、栄養障害などになる疾患で高齢化が進む日本の社会的課題である。主な治療はリハビリテーションだが、実際に食物を食べながらの訓練が最も効果が高い。しかし病気で食事禁止だった患者が、その後食事を開始する際に病棟で安全に食事が摂れているかを評価する方法が存在せず、早期回復を阻害している。そこで我々は誤嚥の発生を簡便かつ高精度で検出する手法を考案した。ウェアラブルセンサーと医療用のアプリを提供することで、早期に経口摂取訓練をすることで患者が“再び口から食べられるようになると想定され、胃瘻造設や長期入院を減らすことで少なくとも年間75億円の医療費削減効果が期待できる。基盤技術として超音波透波法を誤嚥検出に応用した技術を開発して非臨床POCの取得、PCT特許化を行った。2021年迄のベンチャー立ち上げ、その後の医療機器承認を目標に、臨床試験を申請中である。



団体概要

国内で3番目の帝国大学として1907年（明治40年）に創設され、仙台においては1911年（明治44年）に開学した東北帝国大学を前身とする大学である。大学全體としては、帝国大学令に基づく大学として創設された1907年を創立年としており、2007年（平成19年）には東北大創立100周年を祝う様々な記念行事が行われた。2017年6月、指定国立大学法人に指定される。東北大では、現在「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の3つを大学理念としている。

トリプル・リガーズ合同会社（法人登記準備中）



登壇者プロフィール

氏名：丸山 亜由美
所属：トリプル・リガーズ合同会社
(法人登記準備中)

役職：代表

北里大学 医療検査科 卒業、
外資系製薬企業 Roche トップセールス、武蔵野美術大学 基礎デザイン科 卒業、
ケルン国際デザイン大学 交換留学(トビタテ留学ジャパン優秀賞)。Panasonic
主催 100BANCH、NPO 法人 ETIC、主催 Makers
Universityに採択、東京都主催のビジネスコンテスト Tokyo Startup Gateway
2018にて優秀賞受賞。

アート&デザインからワクワクできるヘルスケアをつくろう

多くの人にとって病気とは診断されるまで「自分には関係ない」ものであり、健康に良いとされる食事や運動、治療に必要な採血や服薬などを規則正しく長期的に続けるのはなかなか大変です。

私も自身も20歳の時に糖尿病になって、今年で10年目を迎えます。今までの10年は自分自身の健康維持が精一杯でしたが、これから10年は多くの人が予防や治療を楽しめる世界をアートとデザインから作ってゆきたい、下記の活動に取り組んでいます。

- 1.満腹で健康診断! Shibuya STREAMで血糖値チェックを開催
- 2.血糖値の上がる食べ物は? Designart Tokyoに作品を出展
- 3.未来の血糖値測定とは? Panasonic 100周年記念フォーラムに出展
- 4.子供達の健康を守ろう! 血糖値の授業と食の多様性ワークショップを小学校で開催



会社概要

「リガーズ」には心遣いや思いやりという意味があり、「トリプル・リガーズ」は医療・芸術・食科学3つの異なる学術分野を学び続けることをアイデアの根拠として、人々の行動がポジティブに変わるような仕掛けを世の中に生み出すことを使命としています。

ビジョン：人生100年時代を誰もが豊かに生きる世界をつくります

ミッション：人々の課題や困難を創意工夫によって解決します

現在、ヘルスケア領域では様々な団体やイベントとのコラボレーションによって、医療と芸術から病気の治療や予防に新たな楽しみや喜びを作ることに取り組んでいます。将来は、食科学をアカデミックに学び、健康に貢献できる事業をさらに拡大します。

6. JHeC2019優秀賞受賞者の概要 アイデアコンテスト部門（2）

デジタルハリウッド大学院 デジタルヘルスラボ



登壇者プロフィール

氏名:木野瀬 友人
所属:デジタルハリウッド大学院
デジタルヘルスラボ

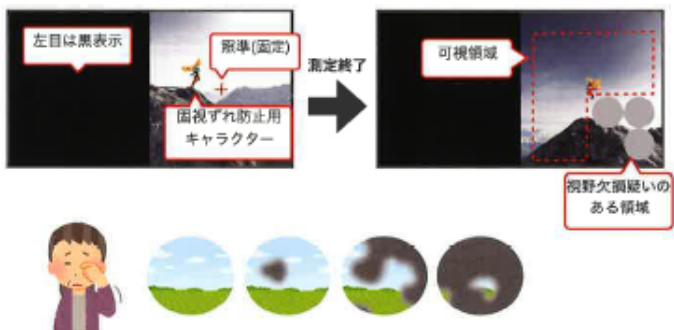
慶應義塾大学総合政策学部卒業、慶應義塾大学政策・メディア研究科修了。デジタルハリウッド大学大学院修士課程(現在)。大学在学時に学生ベンチャーに勤めた後、2004年に開発会社である株式会社エクストーンの前進を設立、同取締役(～2017)。同年、株式会社ドワンゴと共に株式会社ニワンゴを創業、同取締役(～2015)、niconicoの周辺サービスの企画・開発を担当。2013年日本うんこ学会設立。企画から実装までが特技。

緑内障視野欠損簡易発見VR

緑内障視野欠損簡易発見VRは緑内障の潜在患者を発見するためのプロダクトです。失明原因の1位は緑内障であり、日本には潜在患者が400万人いるとされますが、そのうちの9割は未発見です。本プロダクトは、VRヘッドセットを使った一般的なVRゲームのような見た目です。プレイを通して、緑内障の中核症状である視野欠損を簡易的に発見、早期介入を促します。本プロダクトはクリニックのみならず、社会のいたるところに導入することができます。今後は機器のスリム化に加えて、有効性と安全性の検証が求められます。緑内障による失明患者の経済コストは年間2兆円です。緑内障による難題をゼロにし、人々がクリアな視野を持ち続けられる社会を目指します。



視野欠損の測定方法および測定結果の表示（右目の例）



団体概要

デジタルハリウッド大学院デジタルヘルスラボは、外科的・内科的アプローチでは解決が難しいとされてきた医療課題をデジタル領域の力で解決させるラボです。メディカル、クリエイティブ、エンジニアリングを備えたプロダクト実装を推進しています。